

PressRelease



I DREAM CATS

COULD BE US

猫国屋

もしも猫展

I DREAM CATS COULD BE US.

猫が人だったら、人が猫だったら。

開催趣旨

「もしも、うちの猫が人のように話したら？」そんな想像をしたことはありませんか。

人間以外の何かを人間になぞらえることを擬人化（ぎじんか）とよびます。

天保12年（1841）頃から、浮世絵師の歌川国芳（うたがわくによし）は猫を擬人化したり、役者を猫にした作品を次々と発表していきます。

本展では猫の擬人化作品と、それらを描いた歌川国芳を主軸に据えながら、江戸時代の擬人化表現の面白さに着目します。そのなかで、なぜ国芳の作品にかくも惹きつけられるのか、その魅力のありかを探っていきます。

開催概要

名称：特別展「もしも猫展」

会期：2022（令和4）年7月2日（土）～8月21日（日）

会場：名古屋市博物館

〒467-0806 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1

開館時間：9時30分～17時00分（入場は16時30分まで）

休館日：7月4日、11日、19日、25日、26日、8月1日、8日

主催：名古屋市博物館、中京テレビ放送

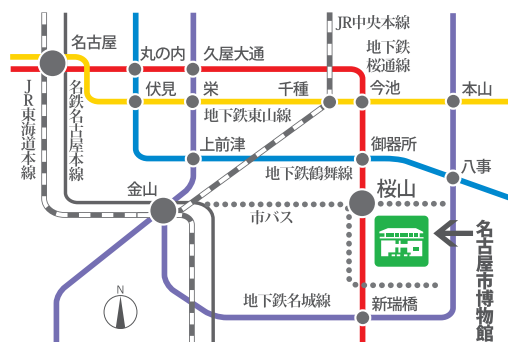
お問い合わせ：TEL.052-853-2655 FAX.052-853-3636

公式サイト：もしも猫展 名古屋 検索

<https://www.ctv.co.jp/nekoten/>



歌川国芳「流行猫の狂言づくし 熊ヶ谷次郎直実ほか」
部分、天保12年（1841）頃、個人蔵



名古屋市博物館 Nagoya City Museum

〒467-0806 名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1

TEL：052-853-2655 FAX：052-853-3636

<http://www.museum.city.nagoya.jp/>

名古屋駅から地下鉄桜通線で17分、桜山駅下車、4番出口から南へ150m、エレベーターご利用の方は3番出口から南へ400m



1) 人のような猫の愛嬌ある姿を楽しむ

猫を主役にした浮世絵をはじめとする約 135 件の作品により、江戸時代における擬人化の世界を紹介します。猫を愛してやまない皆さんはもちろんのこと、現代の擬人化表現に関心を持つ方にも楽しんでいただけることでしょう。ユーモラスで愛嬌あふれる姿に思わずクスリ。笑みがこぼれること請け合いです。

猫だけじゃない。
狐や雀、猪などの動物擬人化も。



歌川国芳「道外十二支 亥」
部分、安政 2 年 (1855)
名古屋市博物館蔵
(高木繁コレクション)



2) 歌川国芳の機智に富んだアイデアを楽しむ

大の猫好きとして知られる浮世絵師の歌川国芳は、ある時期、集中的に猫の擬人化作品を描くようになります。そのなかで特筆すべきなのは当時の有名人（歌舞伎役者）を猫の姿で描くという新機軸を打ち出したことです。その背景にはどのような時代の要請があり、そして彼はどのように応えたのでしょうか。当時の時代背景とともに、機智に富んだアイデア溢れる国芳作品をご堪能ください。



3) くらべる仕掛けを楽しむ

異なる作品を見比べることで、それぞれの絵師の工夫や制作意図、背景などが見えてきます。会場では「くらべるクイズ」など、作品の細部までじっくり観察していただける仕掛けをご用意。さまざまな切り口から作品をご鑑賞いただけます。

歌川国芳（うたがわ くによし）

寛政 9 年 (1797) ~ 文久元年 (1861)。

姓は井草、名は孫三郎、画号はほかに採芳舎、一勇斎、勇斎、朝桜楼、一妙開、程芳。歌川国貞（三代豊国）や歌川広重らと並んで幕末を代表する浮世絵師。

国芳は根っからの猫好きとしても知られています。懐に子猫を抱きながら筆をとっていたとか、猫の位牌を作ったとか愛猫家としてのエピソードには事欠きません。現代の猫好きをも魅了する作品の数々は、彼が愛猫へと注いだ温かいまなざしを反映したものといえるでしょう。



落合芳幾「国芳死絵」文久元年 (1861) 頃、
名古屋市博物館（高木繁コレクション）蔵

本展では全体を5つの章と1つの特集で構成し、歌川国芳が描く猫を擬人化した浮世絵などを紹介します。出品作品は約135件、一部の作品は会期中に場面替えを行います。

- 第1章 くらべてみる
- 第2章 擬人化の効能
- 第3章 おこまものがたり
- 第4章 人、猫になる
- 特 集 おしゃべりな顔、百面相
- 第5章 国芳のまなざし

第1章 くらべてみる

擬人化表現はパロディの一種ともいえ、人々が共有するイメージ、つまり広く知られた特質や伝承、あるいは世間を騒がせた話題を元として制作されることがあります。その場合、既存イメージからの逸脱から生まれる「可笑しみ」に妙趣があるといえるでしょう。とりわけ大衆が主たる購買者である浮世絵では、こうした傾向が顕著ですが、現代となってはかつて共有されていたイメージ自体がとらえがたいものとなっており、当時の人々が味わった楽しさが分かりにくくなっています。そこでまず展覧会の幕開けとして、擬人化して描いた作品と元となったイメージを具体的に見比べてみることで、擬人化表現の魅力を再発見していきます。

第2章 擬人化の効能

室町時代から江戸時代初期にかけて、人間以外のものが主役となる「異類物（いるいもの）」が種々創作されました。ここでは「異類物」に加え、その系譜をひく御伽草子や幕末の風刺画などにより、江戸時代から明治にかけての擬人化表現の歴史を概観していきます。もちろん歌川国芳による滑稽な戯画も見逃せません。擬人化することでどのような効能が引き出されるのか（それはまた絵師が何を意図したかということでもありますが）を見ていきましょう。



（左）錦江斎春艸「墨摺報条 風流曲手まり」部分
天保12年(1841)、個人蔵

（右）歌川国芳「流行猫の曲鞠」
天保12年(1841) 個人蔵



「鼠草子絵巻」巻五（部分）
室町～桃山時代、サントリー美術館蔵
※会期中場面替えを行います。

第3章 おこまものがたり

天保13年(1842)、雌猫“おこま”を主人公にすえた合巻『朧月猫の草紙』(おぼろづきねこのそうし、山東京山作、歌川国芳画)が刊行され、シリーズ化するほどの人気を得ました。本展では異類の婚礼儀礼をつづった「嫁入物(よめいりもの)」の流れのなかに『朧月猫の草紙』を位置づけ、さらには後世へ与えた影響として、おもちゃ絵への展開をみていきます。

京山・国芳という大の猫好きコンビによって江戸時代のさまざまな共有イメージが巧みに織り込まれた“おこま”ちゃんの波乱万丈猫生をお楽しみください。



山東京山作・歌川国芳画『朧月猫の草紙』六編
嘉永元年(1848)刊 個人蔵

再生産される、おこまものがたり



山東京山作・歌川国芳画『朧月猫の草紙』三編
弘化2年(1845)刊、個人蔵

① 猫のおこまちゃん



仮名垣魯文作・歌川芳虎画『花雪狐草紙』初編
文久元年(1861)刊、名古屋市蓬左文庫蔵

② 狐のおたまちゃん



仮名垣魯文作・月岡芳年画『黄金花猫目髪』五編
慶応3年(1867)刊、個人蔵

③ 猫のおたまちゃん



歌川芳藤「新板猫の温泉」
明治21年(1888) 個人蔵

第4章 人、猫になる

天保12年(1841)頃、歌川国芳は「猫の百面相」なる団扇絵を制作します。猫を人間らしい仕草で描くばかりではなく、実在する人間である歌舞伎役者を猫に仕立てるという趣向は、国芳ならではの新機軸でした。これにより役者戯画の幅が大きく広がることになります。そして猫だけでなく亀や十二支などに対象が及びながら、同趣向は後世の浮世絵師たちへ受け継がれていきます。国芳の前時代に培われた役者似顔絵の記号化に言及しつつ、その様相と定着をご覧ください。

特集 おしゃべりな顔、百面相

思わずセリフを付けたくなるほど表情が豊かであることが国芳作品の大きな魅力。天保11年(1840)頃から、彼は様々な状況下に置かれた人間の表情をとらえた絵「百面相」を集中的に発表しています。それらは「こんな人、いるよなあ。」「これは、もしかしてあのシチュエーション?」と、時代を超えて共感できる面白さにあふれています。

おしゃべりな顔「百面相」からは、国芳の観察力と的確な描写力をうかがい知ることができます。

歌川国芳画・花笠文京填詞『写生百面叢』
天保11年(1840)、名古屋市蓬左文庫蔵



歌川国芳「猫の百面相 忠臣蔵」
天保12年(1841)頃、個人蔵



歌川国芳「里すゞめねぐらの仮宿」弘化3年(1846)頃、
名古屋市博物館(高木繁コレクション)蔵

ハックサメ、ちくしょうめ、はア、ハックサメ!
どこでか噂をするな?

第5章 国芳のまなざし

対象物をいかに観察し、描くか。そしてアイデアをどのように膨らませるか。展覧会の最後に、浮世絵師、歌川国芳の溢れる才と魅力を存分にご堪能ください。



歌川国芳「猫身八毛意」天保13年(1842)頃、個人蔵



歌川国芳「流行猫の狂言づくし 熊ヶ谷次郎直実ほか」
天保12年(1841)頃、個人蔵

写真撮影について

本展の展示作品は、一部を除いて撮影いただけます。撮影にあたっては以下の条項をお守りください。

◎撮影時の注意点

- ・他の来館者の鑑賞の妨げにならないよう、ご注意ください。
- ・他の来館者が映りこまないよう、ご注意ください。
- ・シャッター音や周囲にご配慮の上、長時間の撮影はご遠慮ください。
- ・会場の状況によっては撮影をご遠慮いただく場合がありますので、ご了承ください。
- ・本展の展示作品は額装されているため、ガラスによる反射・映りこみがあります。
- ・フラッシュ、ライトの使用は禁止。
- ・動画の撮影は禁止。
- ・三脚や一脚、自撮り棒等の使用は禁止。

その他、作品の保護・安全のため、当館の指示に従ってください。

◎撮影した画像の使用について

- ・画像の使用は私的なものに限り、それ以外の用途での使用は固く禁じます。
- ・Webサイト・ブログ・SNS・電子メール等での掲載は個人での使用に限り、営利目的での使用は固く禁じます。
- ・投稿や公開等の際、来館者の肖像権に触れる場合があります。ご注意ください。
- ・画像掲載による第三者とのトラブルに関して当館では責任を負いかねます。画像の取り扱いにくれぐれもご注意ください。

■新型コロナウイルス感染拡大防止のためのお願い

- 体調がすぐれない方は来館をご遠慮ください。
- 検温で37.5℃以上の発熱が認められた場合は観覧をお断りします。
- 会場内ではマスクを必ず着用ください。着用しない方は観覧をお断りする場合があります。
- 混雑状況に応じて入場制限を行なう場合があります。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、展覧会および関連事業を変更・中止する場合があります。ご来館前に本展公式サイト・SNSにて最新情報をご確認ください。



芦原国直「新板猫相撲づくし」より
「にやごが峰」部分、
明治18年(1885)、個人蔵

7月16日(土) 記念講演会「国芳、猫を描く」

開演：13時30分（開場は13時00分）

会場：地下1階 講堂

講師：当館学芸員 津田卓子

定員：先着110名（事前申し込み）

聴講無料（ただし本展観覧券の半券が必要）

名古屋市電子申請サービス (<https://ttzk.graffer.jp/city-nagoya>) からお申し込みください。

募集開始は6月16日(木)からです。先着順にて受付、定員に達し次第終了します。

またキャンセル待ちの受付はいたしません。

※障害等により電子申請サービスでの申し込みが難しい場合は名古屋市博物館までご相談ください。

取得する個人情報は本事業に関する連絡・集計に使用します。また、感染症対策のため、保健所等に提供する場合があります。

※手話通訳・要約筆記など特別なサポートを必要とする方は、当日の2週間前までに名古屋市博物館までご相談ください。



(上) 歌川国利「新版猫の玉のり」部分 明治28年(1895)、個人蔵 (下)「新版玉のり尽」部分 明治、個人蔵

チケット情報

一般 1,600 (1,400) 円、高大生 1,000 (800) 円、小中生 500 (300) 円

※()内は前売および20名以上の団体料金。

※前売券販売は5月7日(土)から7月1日(金)まで。

※高大生・中学生は学生証等を提示してください。

※チケットは名古屋市博物館、チケットぴあ(Pコード=686-041)、ローソンチケット(Lコード=45227)、セブンチケット(セブンコード094-573)、イープラス、Boo-Wooチケットなどで販売。

※名古屋市交通局の一日乗車券・ドニチエコきっぷを利用してご来館の方は当日料金より100円割引。

※身体等に障害のある方は手帳、難病患者の方は受給者証のご提示により、本人と介護者2名まで当日料金の半額。

※各種割引は重複してご利用していただくことはできません。ご了承ください。

お得なチケット

3 展覧会前売セット券 一般 3,700 円(税込)

本展と同時期に名古屋で開催する以下をあわせて3つの展覧会をご覧いただける前売セット券です。

- ・名古屋市科学館「特別展 宝石～地球がうみだすキセキ～」(7月9日～9月19日)
- ・名古屋市美術館「ボテロ展 ふくよかな魔法」(7月16日～9月25日)

前売価格合計4,600円から3,700円とお得になっています。

ご購入はローソンチケット(Lコード=45227)またはセブンチケット(セブンコード094-573)にて。

販売期間は5月7日(土)から7月1日(金)まで(数量限定)。

「鶏鼠物語絵巻貼付屏風」江戸時代前期、名古屋市博物館蔵



特別展「もしも猫展」広報文例

<報道関係者各位>

本展に関わる記事構成は確認の為、返信にお時間をいただく場合がございます。期間・回数に余裕をもってお申し込みください。
紹介文に下記原稿を変更なく使用される場合は、その限りではありません。

①50 字原稿

猫を主役とした浮世絵など約 135 件の作品によって江戸時代における擬人化表現と歌川国芳の魅力を探ります。(50 字)

②100 字原稿

「もしも、うちの猫が人のように話したら？」そんな想像をしたことはありませんか。

本展では、猫を主役とした浮世絵など約 135 件の作品によって江戸時代における擬人化表現と浮世絵師、歌川国芳の魅力を探ります。(98 字)

③150 字原稿

「もしも、うちの猫が人のように話したら？」そんな想像をしたことはありませんか。

本展では猫の擬人化作品と、それらを描いた歌川国芳を主軸に据えながら、江戸時代の擬人化表現の面白さに着目します。そのなかで、なぜ国芳の作品にかくも惹きつけられるのか、その魅力のありかを探っていきます。(138 字)

④250 字原稿

「もしも、うちの猫が人のように話したら？」そんな想像をしたことはありませんか。

人間以外の何かを人間になぞらえることを擬人化とよびます。天保 12 年（1841）頃から、浮世絵師の歌川国芳は猫を擬人化したり、役者を猫にした作品を次々と発表していきます。本展では猫の擬人化作品と、それらを描いた歌川国芳を主軸に据えながら、江戸時代の擬人化表現の面白さに着目します。そのなかで、なぜ国芳の作品にかくも惹きつけられるのか、その魅力のありかを探っていきます。(234 字)



「大新板猫のいしょう付」明治前期、個人蔵

特別展「もしも猫展」広報画像利用申請書

名古屋市博物館 学芸課 宛

FAX:(052)853-8400 e-mail: ncm-gaku@juno.ocn.ne.jp

本展の作品画像を広報素材として提供します。必要事項をご記入の上、FAX またはメールにてお申し込みください。
画像の使用は、特別展「もしも猫展」を紹介する場合に限ります。展覧会終了後の広報画像の使用、または二次利用は固くお断りします。画像を紹介する場合は、展覧会名・会期・会場・作品名・クレジットを必ず記載してください。広報用画像は全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字のせを行う場合は事前に申請の上、許諾が必要となります。掲載記事につきましても、基本情報確認のため、校正刷り、原稿の段階で下記のお問い合わせ先までお送りください。記事校正は回数・期間に余裕を持ってご提出ください。

貴社名

媒体名

☐紙☐Web☐放送

〒
ご住所

ご担当者名

所管部署名

TEL

FAX

e-mail

ご掲載・放映の予定日が決まっている場合はお知らせください。 → 年 月 日
[個人情報の取扱いについて] ご記入いただきました個人情報は、名古屋市博物館より本展覧会に関する情報発信や連絡などが必要な場合および、今後の催事のご案内に使用します。許可なく第三者に開示することはありません。
作品画像を1点以上掲載し本展をご紹介いただける場合、読者向けチケット（5組10名分まで）を提供します。

☐希望する 組 名分 ☐希望しない

[※原則として掲載紙・誌（webの場合は掲載アドレス通知のメール）が広報担当に到着し、確認してから発送いたします。]

■掲載を希望する画像の□にチェックを入れてご返送ください。

① ☐



歌川国芳「流行猫の曲鞠」個人蔵

② ☐



歌川芳藤「新板猫の温泉」個人蔵

③ ☐



山東京山作・歌川国芳画『朧月猫の草紙』個人蔵

④ ☐



歌川国芳「猫身八毛意」個人蔵

⑤ ☐



落合芳幾「国芳死絵」
名古屋市博物館（高木繁コレクション）蔵

⑥ ☐



※作品名とクレジットは不要。

【お問い合わせ先】名古屋市博物館 学芸課 特別展「もしも展」広報担当 中村、森
〒467-0806 名古屋市瑞穂区瑞穂通 1-27-1
TEL:(052)853-2655 FAX:(052)853-8400 e-mail:ncm-gaku@juno.ocn.ne.jp